

プレスリリース

日本一神楽の盛んな地、島根県浜田市より〈石見神楽〉待望の東京公演開催!

みかわにしかぐらほぞんかい
美川西神楽保存会
いわみかぐら
石見神楽東京公演

ゲスト **オタケビ神楽団(福岡ユタカ)**

伝統的な石見神楽(いわみかぐら)を継承している美川西神楽保存会(島根県浜田市・代表浅浦賢二)では、地元および各方面からのご協力を得て5月30日(日)、東京・有楽町朝日ホールにおいて「石見神楽東京公演」を開催いたします。

さらに共演者として「オタケビと神楽」プロジェクトを続けているミュージシャン福岡ユタカ氏(島根県浜田市出身)を迎え、神楽との共演も披露いたします。

★

今回の公演は、日本各地に数多く存在する神楽のなかでも、傑出してユニークなパフォーマンスであり、また脈々と受け継がれている”生きた伝統芸能”としての「石見神楽」を、存分に生で味わっていただく貴重な機会です。

石見神楽を知らない方たちに、暮らしに根ざした石見の生活文化を知っていただき、日本人の持つDNAに宿る、神楽の心と呼び起こしたい。また、故郷島根から遠く離れた関東近郊在住の方に石見神楽を味わっていただきたい。島根県で最も神楽社中の多い浜田市から、美川西神楽保存会が先陣を切って東京公演を実施、全国に向けて石見神楽の魅力を発信したい。そんな熱い思いが今回の東京公演でいよいよ実現します!

この東京公演を機に、今後とも“石見の宝”、そして日本の宝であろう「石見神楽」の保存・継承そして発展に寄与していきたいと考えています。

美川西神楽保存会

美川西神楽保存会は、島根県西部浜田市中心部の山間部美川西地区(田柵町・横山町)を本拠地に、浜田地方に古くから伝わる郷土芸能「石見神楽」の保存・継承を目的に、例大祭等への神楽奉納・各種イベントでの神楽上演等を中心に活動しています。当保存会の歴史は、明治の初め神職により伝承されてきた、神楽を伝承したときに始まります。以降、“田橋(たばせ)舞子達中”“田橋社中”と名称を変更しながら、活動を継続しますが、第2次世界大戦前後の混乱と若者不足から一時活動が途絶えます。その後、地元の若者有志で昭和42年に“美川西神楽保存会”として再結成され現在に至ります。

現在では、区内外から、下は小学生から上は60代までの多様な会員で、年間約30回の奉納・公演活動を行っており、平成19年(2007年)には結成40周年を迎えました。

上演予定演目 ※変更する場合もございます

- ・ 神迎(かんむかえ)
- ・ 天神(てんじん)
- ・ 塵輪(じんりん)
- ・ オタケビ神楽団上演
- ・ 恵比須(えびす)
- ・ 大蛇(おろち) など

実施概要

●タイトル みかわにししかぐらほそんかい いわみかぐらとうきょうこうえん 美川西神楽保存会 石見神楽東京公演

●開催期日 平成 22 年 5 月 30 日(日)
開場 16:30 開演 17:00 終演 20:00

●会場 有楽町朝日ホール
東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町マリオン 11 階
TEL03-3284-0131



●出演 島根県浜田市・美川西神楽保存会 総勢約 20 名
オタケビ神楽団 (福岡ユタカ・横川理彦・矢壁アツノブ・Whacho)

●内容

- ・美川西神楽保存会による石見神楽の披露 (約 2 時間 30 分)
- ・福岡ユタカ率いる「オタケビ神楽団」との共演 (約 30 分)
- ・島根・浜田の観光展示、物産販売等

●入場料金 前売一般 ¥4,500/ 前売高校生以下 ¥2,000 (全席自由・税込)
当日一般 ¥5,000/当日高校生以下 ¥2,500 (全席自由・税込)
※年齢制限:3 歳未満は無料。但し、幼児用のお席はございませんので、膝上でご観劇下さい。
チケットに関するお問合せ 0570-00-3337 サンライズプロモーション東京(10:00~19:00)
公演に関するお問合せ 080-4206-1456 美川西神楽保存会(事務局 下野)

●前売予約

サンライズプロモーション東京	0570-00-3337
チケットぴあ	http://pia.jp/t 0570-02-9999(Pコード:401-409)
ローソンチケット	0570-084-003(Lコード:33994) 0570-000-407(オペレーター)

e+(イープラス) <http://eplus.jp>
2010年2月28日(日)午前10時より一般発売一斉開始

●主催 美川西神楽保存会
●助成 公益信託しまね文化ファンド助成事業

■公演お問い合わせ■

美川西神楽保存会 事務局 下野貴志(しもの たかし)

080-4206-1456

メールアドレス mikawa-nishi@iwamikagura.com

ホームページ <http://www.iwamikagura.com/tokyo>

神楽の歴史は古く日本神話において天の岩戸隠れの段でアメノウズメが神懸かりをして舞ったというのが起源とされるものです。

かつては日本全国で盛んに行われていた芸能ですが、近年(特に東京)では見た事が無い方も多く人々から大変遠ざかった芸能と言えるでしょう。

今回ご紹介する石見神楽は、島根県西部の石見地方で最も親しまれている郷土芸能です。美川西神楽保存会がある浜田市(人口6万人)では石見神楽を行う団体が50社中にも上り、街の知り合いの誰かは石見神楽の舞子であったり、関係者であったりします。例祭への奉納は元より各種の祭事、祝事の中でも盛んに演じられておりまさに石見地方はまれにみる神楽の盛んなエリアと言えるでしょう。また海外公演も多く日本文化の交流にも役立っています。

石見神楽の起源は定かではありませんが、室町時代に遡るとも言われています。元々神職による神事であったものが、明治維新以降は、庶民の手によって民族芸能として発展してきました。

その内容は、神事的なもの、神懸かりなど呪術的なものに加えて、江戸時代には古事記・日本書紀を原典とする神話ものも加わり、極めて豊富で多彩なものになり「大蛇」を始め演目は30以上にものぼります。また、お囃子も、石見人の気質そのままに、8調子という大変勇壮で活発なものに変化を遂げ、観客を神話の世界に誘います。

私達石見人は、多かれ少なかれ石見神楽の勇壮な舞や囃子の音を見聞きして育ち、体の奥底には神楽の調べが息づいています。春や秋の祭りの季節になると、毎週末には近くの神社からお囃子の音が流れ、その音にある者は郷愁を憶え、ある者は血を踊らせるのです。

今回、その祭りの雰囲気東京のみなさんにも是非味わっていただきたいとの思いでこの公演の企画が立ち上がりました。

忘れ去られた何かをここから見つけていただければ幸いです。

美川西神楽保存会石見神楽東京公演プロデューサー
オタケビ神楽団 福岡ユタカ



石見神楽について

石見神楽の源流は近世以前とされていますが、文化文政期の国学台頭とともに古事記・日本書記を原拠とする神話ものが加わり、演目も豊富で極めて多彩です。

往時、神の御心を和ませるといふ神職によつての神事であつたものが、明治初期からは土地の人々のものになり、民族芸能として演舞されるようになりました。そのリズムは、山間部と海辺で大きく分かれ、山間部では六調子と呼ばれる緩やかなリズムの中での腰を落とした重厚な舞、海辺では八調子と呼ばれるテンポの遠く激しい舞とに二分します。双方共、石見人の気性をそのままに、大太鼓、小太鼓、手拍子、笛を用いての囃子で演じられ、見る人をして神話の世界に誘います。

また、石見神楽はその詞章に特徴があります。荘重で正雅な古典的なそれは、里神楽には極めて稀だといわれており、その中に織り込まれた土の香りの高い方言的表現、素朴な民謡的詩情とともに独特のものをつくりあげています。

大阪万博を機に、海外公演も多く、日本文化の交流に役立っています。そのスケールの大きさとダイナミックな動きで絶賛を得た「大蛇」を含め、演目は30種類以上にのぼり、例祭への奉納はもとより、各種の祭事、祝事の場に欠かすことのできないものとなっており、広く誇れる郷土芸能です。



塵輪 (じんりん)



天神 (てんじん)



恵比須 (えびす)



大蛇 (おろち)

オタケビ神楽団

1999年、浜田市出身の音楽家福岡ユタカと浜田の旧友たちとの共同発案によるアルバム「石見神楽サウンドクロニクル」制作をきっかけにこのプロジェクトが始まった。

その後、浜田市内神楽社中の若手有志たちも参画し、福岡ユタカを中心とするアーティストたちとの特異なプロジェクトへと進化し、現在も毎年ライブ活動を行うなど精力的な活動が続いている。

当初距離のあった社中とミュージシャンの間も徐々に埋まり「Yen・Calling With 石見神楽」と名付けていたプロジェクト名はそのうちに、福岡ユタカの演奏スタイルと相まって「オタケビ神楽団」と呼ばれるようになった。

またこれらの創作活動や公演の様子はNHKによるTVドキュメンタリー「オタケビと神楽～列島スペシャル」50分番組（2001年）、そして同じくNHKによる「古の神を舞う～オタケビと神楽 風の国公演」50分番組（2003年）としてオンエアされ話題になった。



福岡ユタカ (YEN Chang) 作曲家・フリーボーカリゼーションアーティスト

83年にデビューしたバンド「PINK」（ヴォーカル、リーダー担当）より今までリリースしたメジャーメインアルバムは20タイトルを超える。

15年ほど前よりフリーボーカリゼーションスタイルのパフォーマンス「YEN Calling」を提唱。感性の趣くまま「心」高揚を歌詞のない歌声で表現し続ける福岡ユタカのヴォーカルスタイルは、そのエフェクト処理された表現方法も併い他に類の無い独自の進化を遂げその一部はTVなどでも数多くオンエアされていて彼の声は誰もが耳にしているはずである。

作曲家、プロデューサーとしても映画、TV、CMなどの音楽制作多数。映画: 「どろろ」（2008）TV: TBS「イブニングワイド」（現在）テレ朝「ニュースステーション」（2001～2004）。NHKスペシャル「出雲大社」（2001）、NHK天才てれびくんテーマ（2004）TVドラマ「夜叉」（テレビ朝日）など多数。



今回の石見神楽との共同プロジェクトは10年に及び、さながら自身のライフワークにも成っている。

詳しくは福岡ユタカのオフィシャルHP

[YEN CALLING on web] <http://www.lares.dti.ne.jp/~yenchang> にて